

作況ニュース（第3号）

水 稲

（発行：平成30年6月15日）（編集：平成30年6月14日）

発行：秋田県農林水産部

水 稲

地域間差はあるものの、生育の進みは早い

－目標莖数を確保したら中干しを－

－オリゼメート粒剤の適期散布と余り苗は直ちに処分を－

1 今後の気象の見通し

(1) 東北地方1か月予報（6月16日～7月15日）【平成30年6月14日 仙台管区气象台発表】

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

- 次回の予報発表予定： 1か月予報 毎週木曜日14時30分、次回は6月21日(木)
3か月予報 6月25日(月) 14時00分

【季節予報】 http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/102_00.html

2 県内の概況

(1) 天候の特徴

【秋田地方气象台】

5月下旬： この期間、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。低気圧や気圧の谷の影響で雨や曇りの日もあった。30日と31日は気圧の谷や低気圧の影響で大気の状態が不安定となり大雨となった所があった。

旬平均気温は「高い」。旬降水量は概ね「少ない」～「平年並」、多い所もあった。旬間日照時間は概ね「多い」～「かなり多い」。

6月上旬： この期間、高気圧に覆われ晴れた日が多かった。低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあった。旬平均気温は概ね「高い」～「かなり高い」。旬降水量は概ね「平年並」～「多い」、少ない所もあった。旬間日照時間は概ね「平年並」～「多い」。

[旬統計値（秋田）]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年差 (%)	階級区分	日照時間 (hr)	平年差 (%)	階級区分
5月下旬	17.3	+1.3	高い	33.0	86	平年並	88.4	129	多い
6月上旬	19.5	+1.5	高い	13.0	53	少ない	73.8	113	多い

(2) 本田の生育

1) 移植栽培

各地域振興局による定点調査（6月11日）では、あきたこまち（県内64地点）は、草丈27.2cm（平年比110%）、茎数167本/m²（同115%）、葉数6.3葉（平年差+0.4葉）であった。ひとめぼれ（6地点）は、草丈27.6cm（平年比103%）、茎数234本/m²（同105%）、葉数6.6葉（平年差+0.2葉）であった（表-1）。

あきたこまちの平均の移植日は平年より1日遅い5月21日で、草丈は平年より長く、茎数、葉数は多かった。ひとめぼれの移植日は平年と同じ5月19日で、草丈は平年並で、茎数、葉数は多かった。なお、茎数は地域により平年比82~142%と地域間差が大きい（資料編p.12 表-1）。

表-1 定点調査結果（6月11日調査）

品種	地区	草丈			m ² 当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
あきたこまち	県北	28.6	106	112	202	151	119	6.6	0.6	0.4
	中央	26.1	111	103	138	110	87	6.2	0.5	0.0
	県南	26.5	123	112	151	161	126	6.1	0.8	0.5
	全県	27.2	114	110	167	146	115	6.3	0.7	0.4
ひとめぼれ	中央	27.6	101	103	234	144	105	6.6	0.7	0.2

※平年値：平成20年～29年までの過去10年平均

表－2 気象感応試験の生育状況（あきたこまち、6月11日調査）

試験地	移植日	草 丈			㎡当たり茎数			葉 数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
比内	5月10日	27.8	109	110	230	90	103	7.5	0.3	0.2
農試(標植)	5月15日	26.0	95	99	257	104	119	7.3	0.8	0.5
農試(晩植)	5月25日	26.2	136	—	144	172	—	6.1	0.6	—

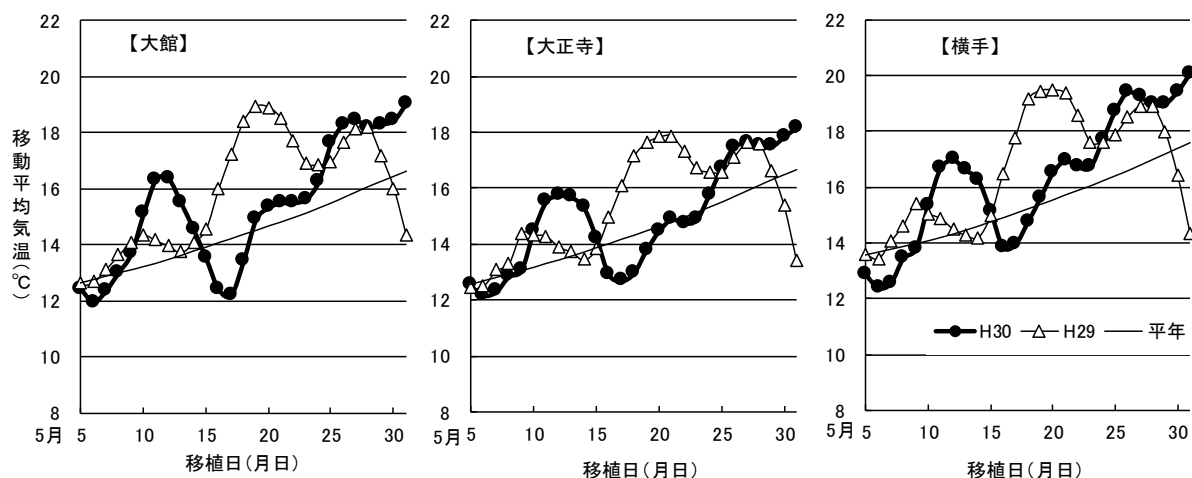
注. 平年値は平成12～29年の平均値を用いた。

6月11日調査の生育状況は、比内では草丈27.8cm（平年比110%）、㎡当たり茎数は230本（同103%）、葉数は7.5葉（平年差+0.2葉）であった。

農試（標植）では、草丈は26.0cm（平年比99%）、㎡当たり茎数は257本（同119%）、葉数は7.3葉（平年差+0.5葉）であった。

農試（晩植）では、草丈は26.2cm（前年比136%）、㎡当たり茎数は144本（前年比172%）、葉数は6.1葉（前年差+0.6葉）であった。

6月1半旬までの気温が高く、日照時間が多かったことから、5月10日移植の比内と5月15日移植の農試（標植）では、いずれの項目も平年並～上回り、5月25日移植の農試（晩植）も前年を上回った。



図－1 移植日翌日から5日間の移動平均気温（各地点アメダスデータ）

移植始期（資料編p. 11、2 農作業進捗調査結果）以降で移動平均気温が中苗の移植適温とされる14℃より低かったのは、大館では5月15日～18日まで、大正寺では5月16日～19日まで、横手では5月16日であった。また、それ以降は平年並～高く推移した（図－1）。

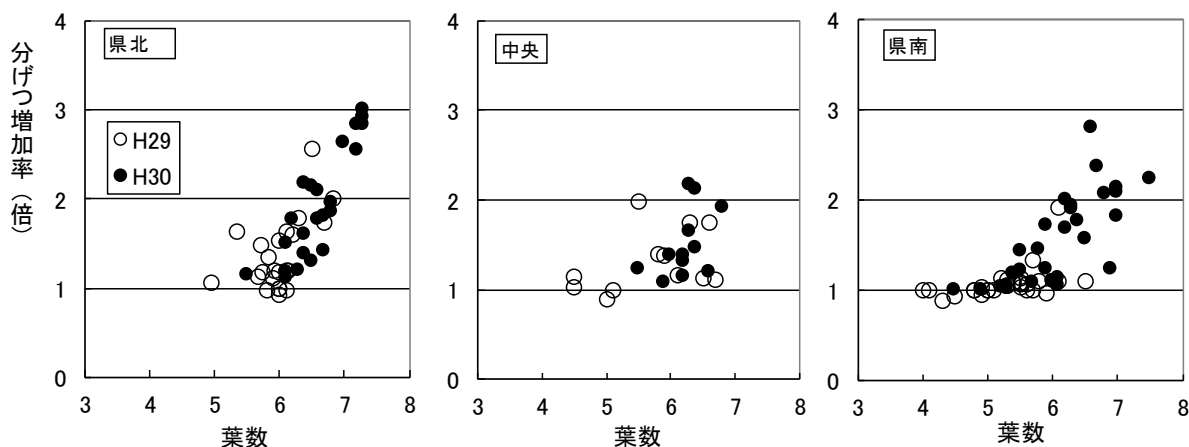


図-2 葉数と分けつ増加率(あきたこまち、6月11日定点調査)

$$\text{分けつ増加率} = \text{茎数} / \text{植え付け本数}$$

(注: 中苗の場合、主稈第6葉伸展中(5.1~6.0葉)に3号分けつ(以下3号)、主稈第7葉伸展中(6.1~7.0葉)に4号分けつ(以下4号)が発生。植え込み本数に対して3号のみが完全に発生した場合、分けつ増加率は2。さらに4号が完全に発生した場合の分けつ増加率は3。)

定点調査ほ場のあきたこまの葉数と分けつ増加率は、前年と比べて各地域とも葉数の展開が早く、分けつ増加率が高い傾向であった。県北、県南地域では分けつ増加率が3に到達または近い地点も見られ、茎数の確保が進んでいる。目標茎数を確保後は速やかに中干しを行う。一方、中央地域では分けつ増加率が2を上回った地点が少なかった(図-2)。6葉までの期間中に増加率が2に達しない地点では、1次分けつ3号の発生は抑制されていると考えられる。初期分けつの少ないほ場では、浅水管理による分けつの確保を行う。

2) 直播栽培

本年は5月18~20日に低温となったが、定点調査ほ場では播種後10日間の移動平均気温が14℃以上となり(資料編p.17 図-5)、苗立数は78~119本/m²(目標苗立数80~100本/m²)であった。

6月11日現在の定点(湛水直播、「あきたこまち」)の生育概況は、全県平均で苗立率64%、苗立数96本/m²(前年比92%)、草丈17.9cm(前年比128%)、茎数133本/m²(前年比120%)、葉数4.1葉(前年差+0.7葉)であった(表-3)。

6月11日現在の農業試験場における生育概況は、苗立率42%、苗立数60本/m²、草丈16.1cm、茎数60本/m²、葉数3.9葉である(資料編p.17 図-7、p.18 表-7)。

表－3 定点調査結果（湛水土中条播：品種 あきたこまち、各地域振興局 6月11日調査）

地域 振興局	播種 月日 (月/日)	出芽率(%)		苗立率 (%)	苗立数		草丈		㎡当たり茎数		葉数	
		播種 10日後	播種 20日後		本年 (本/㎡)	前年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	本年 (葉)	前年差
北秋田	5/12	48	60	64	119	95	22.4	144	157	126	4.3	0.9
秋田	5/10	-	60	63	99	85	15.4	91	122	90	3.9	0.2
仙北	5/11	35	62	63	78	95	20.1	126	95	108	4.5	0.6
平鹿	5/20	65	65	67	89	96	13.9	190	157	169	3.9	1.5
全県	5/13	49	62	64	96	92	17.9	128	133	120	4.1	0.7

*播種10日後の出芽率は、秋田を除く(5月18日の大雨により)3地点の平均値

*出芽率・苗立率/播種粒数(播種量から推定)×100

(3) 病害虫の発生概況

1) 斑点米カメムシ類

6月2半旬までの牧草地すくい取り調査におけるアカヒゲホソミドリカスミカメ及びアカスジカスミカメの越冬世代成虫の発生時期は、いずれも全県平均で平年よりやや早い。

3 当面の技術対策（6月中旬～下旬）

5月5半旬から高温で日照時間が多いことから、葉数の展開が進み、茎数が多いほ場が多い。一方、茎数の少ないほ場も見られることから、各ほ場の生育状況に応じたきめ細かな栽培管理を行うことが重要である。

(1) 水管理

- 1) 分げつ発生が少なく、茎数が足りない場合は、浅水管理を徹底して分げつの発生を促進する。また、水温と地温を高めて日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行う。中苗の移植栽培では第3号から第6号までの1次分げつ、直播栽培では第1号から第4号までの1次分げつを確保する。
- 2) 還元しやすい土壌では、短期間の落水や水の入れ替えにより土壌還元を防止する。
- 3) 目標茎数を確保したら、中干しまたは深水処理で分げつを抑制する。

(2) いもち病予防のため余り苗は直ちに処分

余り苗で発生したいもち病は、周辺ほ場への強力な伝染源となるため、余り苗は土中に埋めるなどして直ちに処分する。

(3) オリゼメート粒剤は適期に散布

移植栽培での葉いもちの全般発生開始期は平年では7月7日であるが、全般発生開始期が早まると葉いもちや穂いもちが多くなる傾向がある。オリゼメート粒剤は初期の発病を抑えることで葉いもちの発生量を少なくするので、側条施用剤や箱施用剤を施用していない場合は、6月15日頃（6月12～18日）に10a当たり2kg散布する。

直播栽培では移植栽培に比べて葉いもちの初発が遅れるため、播種時に防除剤を施用していない場合は、オリゼメート粒剤を6月23日頃（6月20～25日）に10a当たり2kg散布する。

(4) 初期害虫の防除

6月に移植したほ場や直播栽培では生育量が小さいため、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）、イネミズゾウムシ等の初期害虫による食害がイネの生育を抑制することがある。害虫の発生状況をよく観察し、防除を実施する。

（防除基準p. 29～32、41参照）

(5) 表層剥離・藻類等の防除

表層剥離やアオミドロ等の発生が多くなると地温や水温が低下し、生育が抑制されるので適切な対策を講ずる。対策としては、気温の低い早朝や雨の日の水の入替えを基本とする。移植栽培では、水管理で十分な効果が見られない場合は、中耕機による攪拌やモグトン粒剤を散布する。

(6) 中・後期除草剤の適正使用

中・後期剤の使用にあたっては、ほ場の発生草種や生育程度を観察して、適切な剤を選択する。

1) 移植栽培

①ノビエのみ見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパ1キロ粒剤／スケダチ1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパ1キロ粒剤／スケダチ1キロ粒剤の使用時期はノビエ4葉期までだが、効果発現に日数を多く要するので早めに散布する。クンチャー剤は粒剤、ジャンボ剤、液剤によって使用時期や使用量が異なる。また、クリンチャー剤は散布後に発生したノビエには効果がない。

②ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC、フォローアップ1キロ粒剤／ワイドアタックD1キロ粒剤で対応する。

（防除基準p. 300～304を参照）

2) 直播栽培

①ノビエのみ見られる場合は、クリンチャー剤、ヒエクリーン1キロ粒剤／ワンステージ1キロ粒剤のいずれかを散布する。

②ノビエ以外の難防除雑草（ホタルイ類、コナギ、オモダカ等）が主に見られる場合は、バサグラン液剤を散布する。

③ノビエ及び難防除雑草が見られる場合は、マメットSM1キロ粒剤、ザーベックスDX1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCを散布する。

（防除基準p. 307～309、p. 316～317を参照）

(7) ばか苗病の早期発見と早期処分

採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと土中に埋めて処分する。
発病株の処分は遅くとも6月末までに終了する。

(8) 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

主要加害種であるアカスジカスミカメは、水田内のホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するため、上記(6)を参照し水田内の除草に努める。

また、農道・畦畔などのイネ科雑草でも増殖することから、農道・畦畔や法面、休耕田等の雑草地は、地域でまとまって一斉に除草し、斑点米カメムシ類の密度低下を図る。

(防除基準p. 36～38参照)

(9) アワヨトウの飛来

長距離移動性害虫であるアワヨトウ成虫の飛来が5月6半旬(平年6月3半旬)から確認されており、今後の発生に注意する(平成30年6月1日発表 農作物病虫害発生予察情報発生予報 第2号(6月予報)参照)。

第1世代幼虫は6月中旬以降にイネ科牧草、とうもろこし、小麦等のイネ科作物に被害を及ぼすと予想されるが、水稻では休耕田等からの幼虫の移動・加害に注意する。

(10) 農薬の飛散・流出防止の徹底

農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策の一層の徹底を図る。

また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

【時期別・主要作業別指導事項】

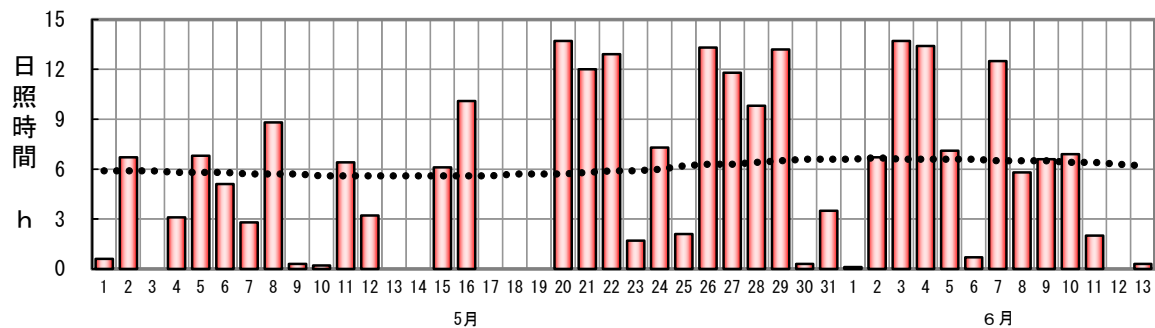
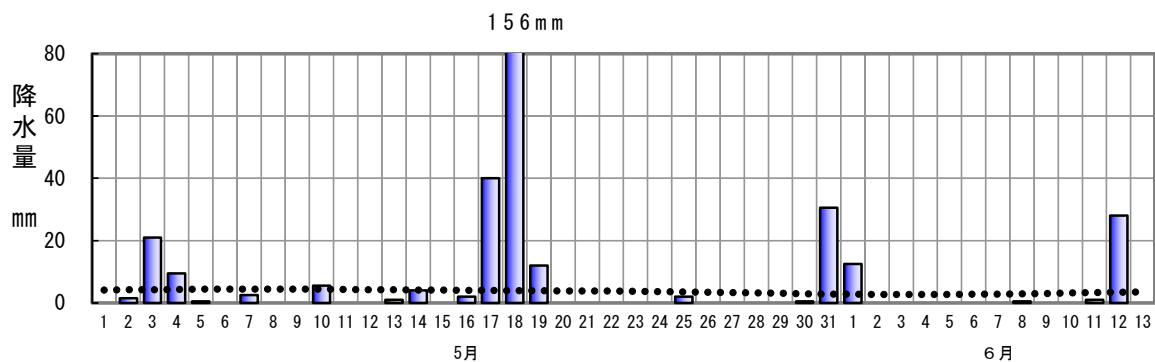
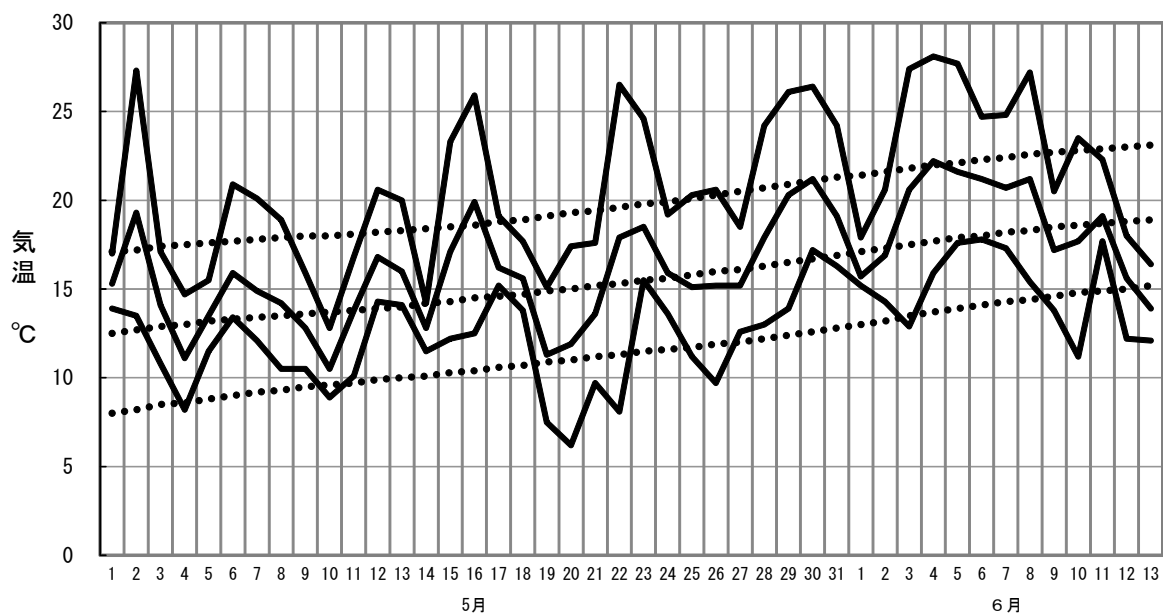
月旬	作業の種類	主な指導事項
6月中旬 ～ 6月下旬	水管理	○浅水管理の徹底により分けつの確保に努める。 ○かん水は早朝に行い、短時間で終えるようにする。 ○目標茎数を確保したら、中干しまたは深水処理で分けつを抑制する。 ○落水しにくいほ場や異常還元ほ場では、中干しに先立ち溝切り等を行い、排水を図る。
	表層剥離・藻類等の防除	○水の入替え等で対応する。 ○移植栽培では必要に応じて中耕機による攪拌やモゲトン粒剤を散布する。
	余り苗の処分	○余り苗にいもち病が発生すると、強力な伝染源となるので、余り苗は、直ちに土中へ埋め込んで処分する。
	直播水稻の追肥	○苗立数が60本/㎡以下の場合は、5葉期までに10a当たり窒素成分で2kg以下の追肥を行う。
	中・後期除草剤の適正使用	○ノビエが見られる場合は、ヒエクリーン1キロ粒剤/ワンステージ1キロ粒剤、ヒエクッパ1キロ粒剤/スケダチ1キロ粒剤、クリンチャー剤のいずれかを散布する。 ○ノビエ及びその他の難防除雑草が見られる場合は、レブラス1キロ粒剤、クリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSC等で対応する。
	葉いもち防除	○移植栽培で側条施用剤や箱施用剤を施用していない場合は、オリゼメート粒剤を遅くとも6月18日までに10a当たり2kg散布する。 ○直播栽培で播種時に側条施用剤を施用していない場合は、オリゼメート粒剤を6月23日頃（6月20～25日）に10a当たり2kg散布する。
	初期害虫の防除	○6月に移植したほ場や直播栽培では生育量が小さく、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）やイネミズゾウムシの食害がイネの生育を抑制することがある。害虫の発生状況をよく観察し、防除を実施する。
	ばか苗病の対策	○採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと抜き取って土中に埋めて処分する。 ○発病株の処分は遅くとも6月末までに終了する。
	畦畔等雑草の管理	○斑点米カメムシ類の増殖を抑える（密度低下）ため、雑草管理は地域でまとまって行う。
農薬飛散・流出防止	○農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策の一層の徹底を図る。また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。	

資 料 編

1 気象経過

(1) 平成30年5月1日から6月13日の気象経過図(観測地点：秋田地方気象台)

(資料 秋田地方気象台)



(2) 旬別気象状況 (秋田市)

(資料 秋田地方気象台)

項目 \ 時期	5月上旬		5月中旬		5月下旬		5月計	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
平均気温(℃)	14.2	+0.9	15.1	+0.7	17.3	+1.3	15.6	+1.0
降水量(mm)	40.5	95%	215.0	517%	33.0	86%	288.5	235%
日照時間(h)	34.4	59%	39.5	72%	88.4	129%	162.3	89%

項目 \ 時期	6月上旬	
	本年	平年比較
平均気温(℃)	19.5	+1.5
降水量(mm)	13.0	53%
日照時間(h)	73.8	113%

2 農作業進捗調査結果 (各地域振興局調査)

区分	地域	始期 (5%)			盛期 (50%)			終期 (95%)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
田植作業	県北	5/14	5/14	5/16	5/23	5/21	5/21	5/29	5/28	5/28
	中央	5/11	5/11	5/11	5/20	5/20	5/19	5/29	5/29	5/29
	県南	5/17	5/18	5/19	5/25	5/24	5/25	5/31	5/30	6/1
	全県	5/12	5/13	5/13	5/23	5/22	5/22	5/30	5/30	5/31

3 水稲定点調査結果（各地域振興局6月11日調査）

表－1 定点調査結果（品種：あきたこまち）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
鹿角	5	30.6	121	120	245	187	142	6.9	1.1	0.8
北秋田	9	29.2	105	111	225	157	114	6.6	0.6	0.3
山本	9	26.9	100	108	155	123	111	6.5	0.4	0.5
秋田	10	26.0	105	101	141	108	82	6.3	0.4	-0.1
由利	2	26.6	155	115	124	127	110	5.7	0.9	0.2
仙北	10	27.0	118	111	170	156	123	6.2	1.0	0.5
平鹿	11	25.5	123	111	134	161	121	5.8	0.5	0.3
雄勝	8	27.0	127	112	151	170	139	6.3	1.0	0.7
全県平均	64	27.2	114	110	167	146	115	6.3	0.7	0.4
6月10日の 理想生育量		目標	下限	上限	目標	下限	上限	目標	下限	上限
	県北	24	23	26	159	140	179	6.2	5.9	6.4
	中央	25	23	27	174	145	204	6.3	6.0	6.6
	県南	24	23	25	125	113	138	5.8	5.6	6.0

表－2 定点調査結果（品種：ひとめぼれ）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
秋田	2	25.0	98	102	189	130	98	5.9	0.4	-0.3
由利	4	28.9	102	105	257	151	110	6.9	0.8	0.4
中央地区平均	6	27.6	101	103	234	144	105	6.6	0.7	0.2

4 関連成績

(1) 気象感応試験 (あきたこまち)

1) 稲作期間の気象 (5月下旬以降)

5月下旬からは晴れの日が多く、平年に比べ気温は高く、降水量は平年並～少なく、日照時間は平年並～多かった。

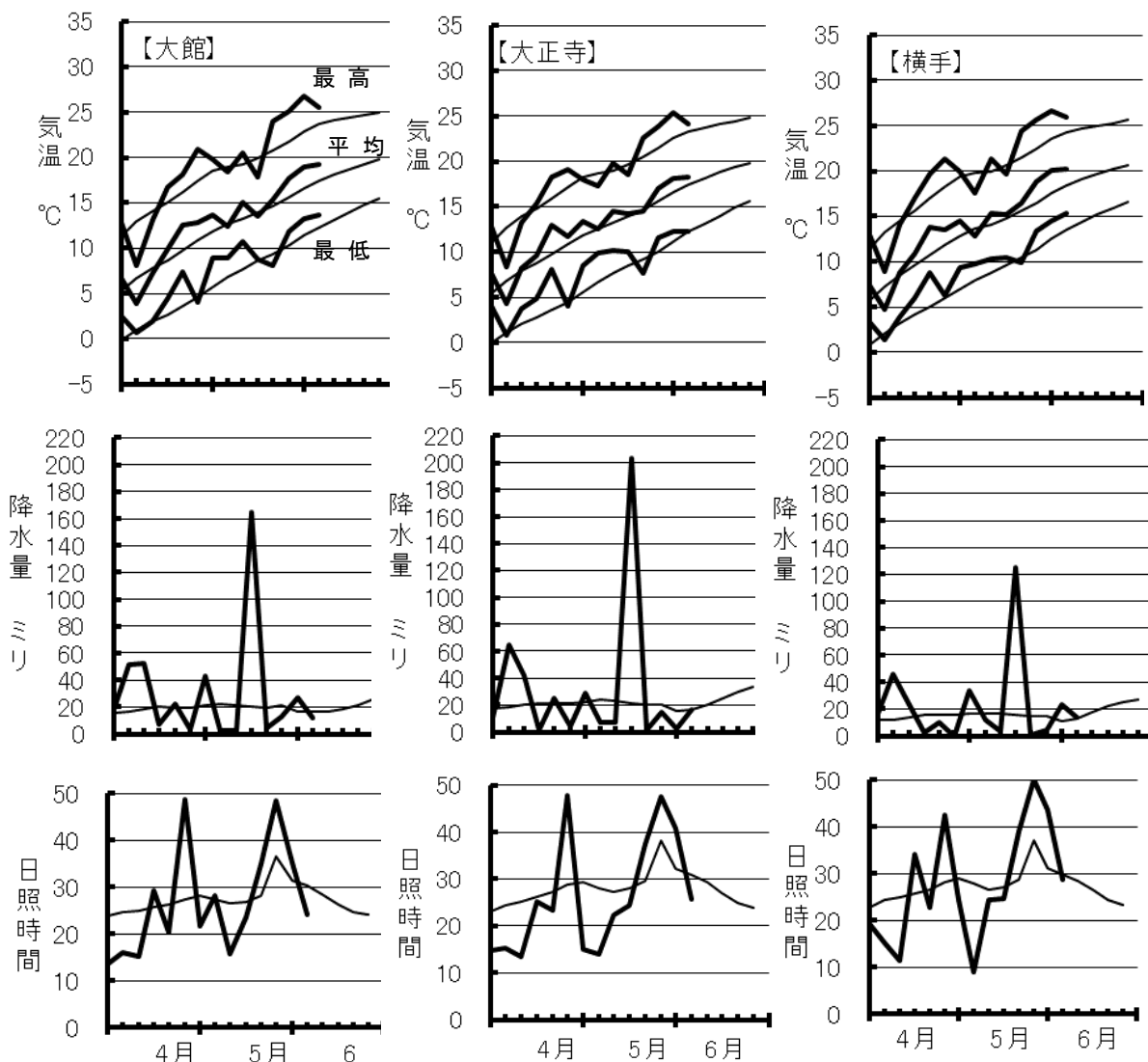


図-1 平成30年の稲作期間中の気象推移 (アメダスデータ)

2) 生育概況

表-3 気象感応試験の生育状況 (6月11日調査)

試験地	移植日	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
比内	5月10日	27.8	109	110	230	90	103	7.5	0.3	0.2
農試(標植)	5月15日	26.0	95	99	257	104	119	7.3	0.8	0.5
農試(晩植)	5月25日	26.2	136	—	144	172	—	6.1	0.6	—

注. 平年値は平成12～29年の平均値を用いた。

6月11日調査の生育状況は、比内では草丈27.8cm（平年比110%）、m²当たり茎数は230本（同103%）、葉数は7.5葉（平年差+0.2葉）であった。

農試（標植）では、草丈は26.0cm（平年比99%）、m²当たり茎数は257本（同119%）、葉数は7.3葉（平年差+0.5葉）であった。

農試（晩植）では、草丈は26.2cm（前年比136%）、m²当たり茎数は144本（前年比172%）、葉数は6.1葉（前年差+0.6葉）であった。

6月2半旬までの気温が高く、日照時間が多かったことから、5月10日移植の比内と5月15日移植の農試（標植）では、いずれの項目も平年並～上回り、5月25日移植の農試（晩植）も前年を上回った。

表－4 農業試験場の出葉状況（気象感応試験）

品種	年次	出葉期								
		5葉	6葉	7葉	8葉	9葉	10葉	11葉	12葉	13葉
あきたこまち （標植）	H30	5/24	5/30	6/5	6/10	—	—	—	—	—
	H29	5/21	5/27	6/3	6/15	6/22	6/28	7/6	7/15	7/23
	平年	5/24	5/30	6/5	6/12	6/17	6/23	7/2	7/12	7/19
	平年差	0	0	0	-2	—	—	—	—	—
あきたこまち （晩植）	H30	6/1	6/5	6/11	—	—	—	—	—	—
	H29	5/29	6/7	6/15	6/21	6/26	7/3	7/10	7/17	7/25

注：標植の平年値は、平成12～29年までの平均。

標植の移植時葉数の平年値は3.4葉。

H30年の移植日と移植時葉数は標植5月15日、3.2葉、晩植5月25日、3.4葉。

農試（標植）の出葉期は、平年に比べ7葉期までは平年並であったが、高温の影響で8葉期は平年に比べて2日早くなっている。晩植では昨年と比べて7葉期は4日早くなっている。

3）分けつの発生状況（6月11日調査）

農試（標植）（5月15日移植）における、分けつの初発生は6月1日で平年並であった（図－2）。6月11日の10個体当たりの累積分けつ本数は26本で、平年の20本に比べてやや多かった。

10個体当たりの1次分けつの発生状況では、主稈葉数が7.3葉で、2号が0本（平年値2本）、3号が7本（同6本）、4号が9本（同9本）、5号が10本（同10本）となっている（表－5）。5月5半旬からの高温により分けつ発生が早くなっている。

比内（5月10日移植）では、主稈葉数7.5葉で、1次分けつは、3号が6本、4号が10本、5号が10本、2次分けつは1本となって、平年並～多くなっている。

農試（晩植）（5月25日移植）では、分けつの初発生は6月7日で、昨年と比べて8日早くなっている。主稈葉数6.1葉で、1次分けつは2号が1本、3号が2本、4号が7本、5号が2本となっている。

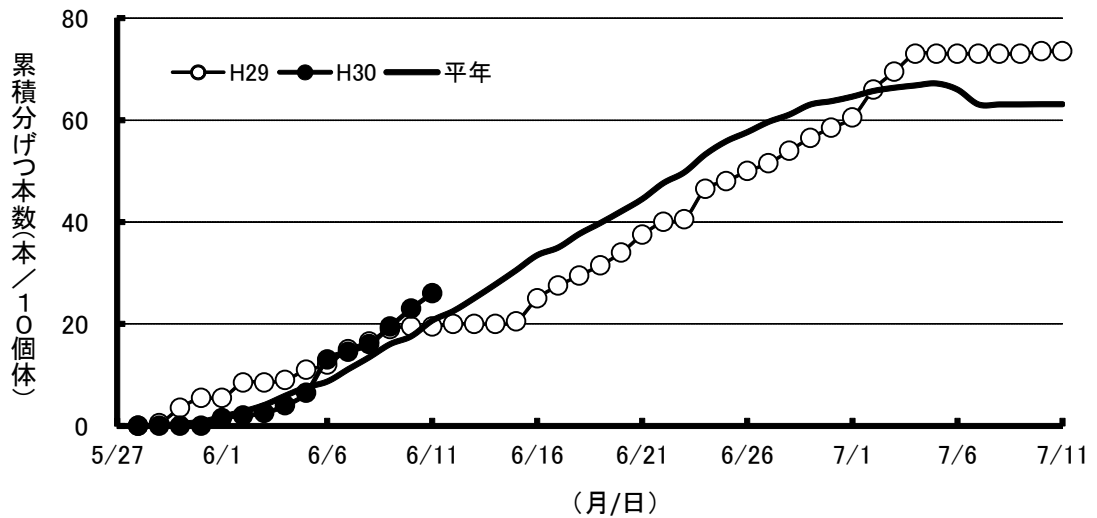


図-2 分けつの発生推移(農業試験場、中苗・あきたこまち、5月15日移植、10個体合計)

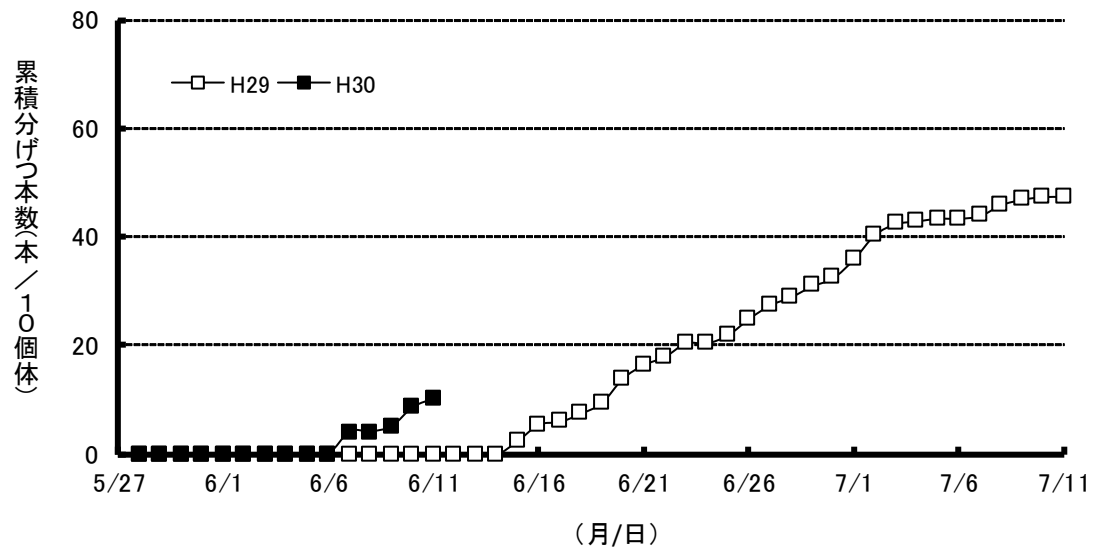


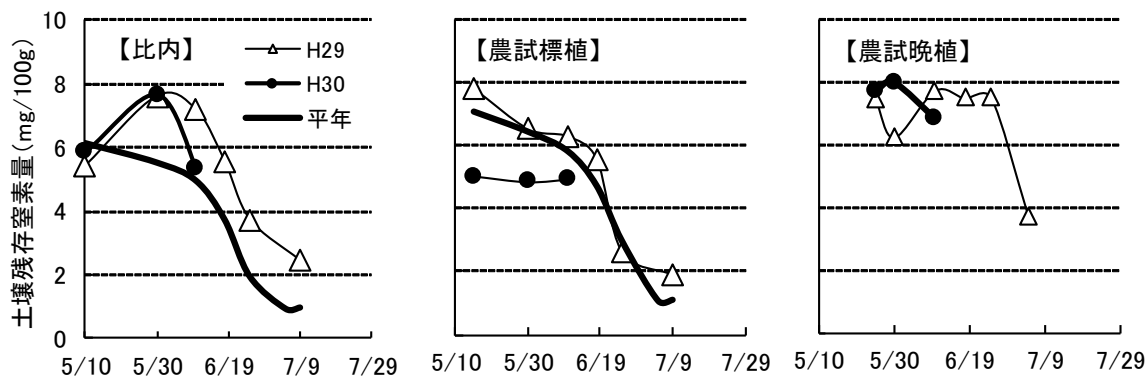
図-3 分けつの発生推移(農業試験場、中苗・あきたこまち、5月25日移植、10個体合計)

表-5 10個体当たりの分けつ発生数(6月11日調査)

試験地	移植日	葉数	1次分けつ						2次分けつ		分けつ 合計
			1号	2号	3号	4号	5号	6号	2号	3号	
比内	5月10日	7.5	0	0	6	10	10	—	—	1	27
農試(標植)	5月15日	7.3	0	0	7	9	10	—	—	—	26
農試(晩植)	5月25日	6.1	0	1	2	7	2	—	—	—	10

ラウンドの関係により分けつそれぞれの計と合計は必ずしも一致しない。

4) 土壤残存窒素量



図－4 土壤残存窒素量の消長

注：移植日：比内 5月10日、農試(標植) 5月15日、農試(晩植) 5月25日

基肥量：比内 N 0.7kg/a、農試 N 0.7kg/a

平年値：平成12～29年までの平均値。

6月11日の土壤残存窒素量は、比内は5.5mg/100gで前年より少なく、平年並であった。農試(標植)は5.2mg/100gで前年及び平年より少なかった。農試(晩植)は7.0mg/100gで前年より少なかった。

(2) 直播作況試験

1) 直播水稻の出芽・苗立

農業試験場の播種初数は143粒/m² (平年142粒/m²) であった。苗立率は42%で、前年差-12ポイント、平年差-18ポイントと前年及び平年を下回った。苗立数は60本/m²となり前年より多かったが、平年を下回った(表-6)。

本年は、5月以降気温は周期的に変化し、播種後10日間の平均気温は14.3℃で平年並であった(図-5)。

播種から出芽揃期(苗立数の90%が出芽した日)までは11日で平年より2日早かった。播種15日後の出芽率は68%であったが(図-6)、5月6半旬から表層剥離が発生し苗の持ち上げや風による剥離膜の移動によって苗が押し倒され、苗立率が低下した(図-7)。

表-6 農試直播作柄解析ほ場の苗立(あきたこまち、湛水土中条播、6月11日現在)

播種 月日	苗立率			m ² 当たり苗立数		
	本年 (%)	前年差	平年差	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)
5/10	42	-12	-18	60	115	74

注) 平年値は前10か年の平均値を用いた。

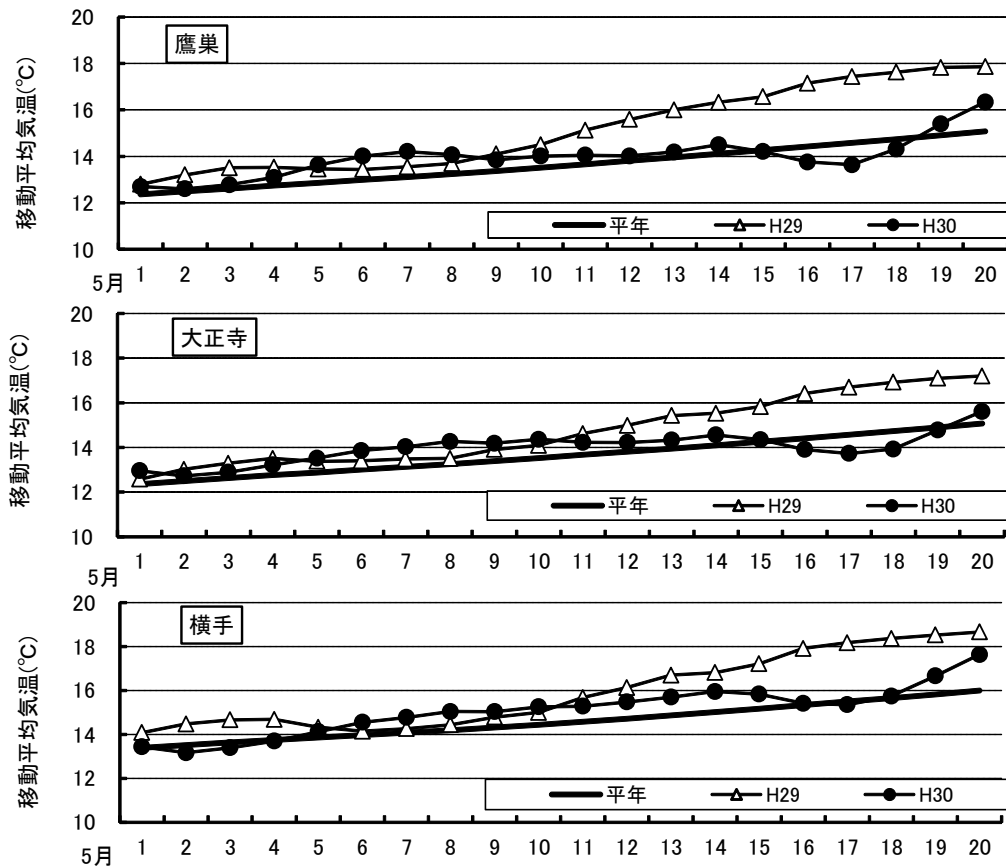


図-5 播種時期と翌日から10日間の移動平均気温(アメダスデータ)

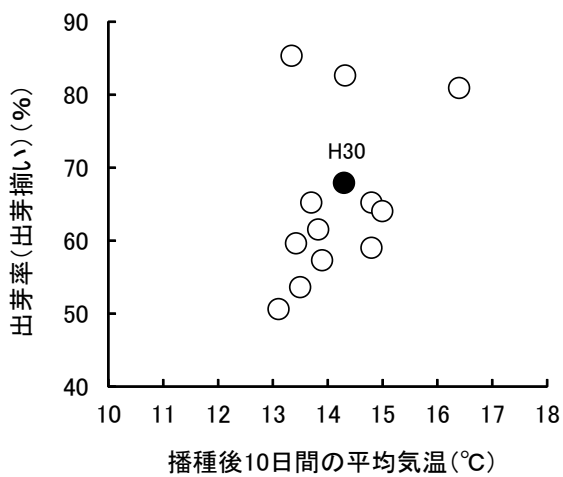


図-6 播種後10日間の平均気温と出芽率の関係

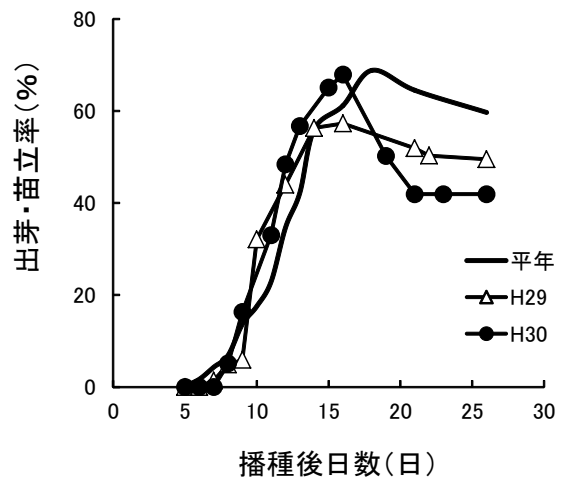


図-7 出芽・苗立率の推移

注) 平年値: 前10か年の平均値を用いた。

2) 直播水稻の生育概況 (6月11日現在)

6月11日調査の生育状況は、草丈16.1cm(平年比107%)、 m^2 当たり茎数は60本(平年比52%)、茎数増加比は1.0(平年差-0.4)、葉数は3.9葉(平年差±0葉)であった(表-7)。草丈が長く、葉数は平年並であるが、苗立数が少なく、茎数増加比が低いため、 m^2 当たり茎数が少ない。

表－7 農試直播作況ほ場の生育概況

(あきたこまち、湛水土中条播、5月10日播種、6月11日現在)

草 丈			㎡当たり茎数			茎数増加比			葉 数		
本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年 (%)	本年	前年差	平年差	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
16.1	126	107	60	116	52	1.0	±0	-0.4	3.9	0.4	±0

注1) 平年値は前10か年の平均値を用いた。

注2) 茎数増加比=茎数/苗立数

各地域における技術情報等のお知らせ

各地域における技術情報等についての問い合わせは、最寄りの地域振興局農林部農業振興普及課に電話またはFAXでお願いします。

各地域振興局	電話番号	FAX番号
鹿角 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-23-3683	0186-23-7069
北秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-62-1835	0186-63-0705
山本 地域振興局農林部農業振興普及課	0185-52-1241	0185-54-8001
秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	018-860-3410	018-860-3363
由利 地域振興局農林部農業振興普及課	0184-22-7551	0184-22-6974
仙北 地域振興局農林部農業振興普及課	0187-63-6110	0187-63-6104
平鹿 地域振興局農林部農業振興普及課	0182-32-1805	0182-33-2352
雄勝 地域振興局農林部農業振興普及課	0183-73-5114	0183-72-6897

記事についてのお問い合わせは

秋田県農業試験場

TEL 018-881-3330

作物部

内線(423・426)

生産環境部

内線(304・308・310)

秋田県病虫害防除所

TEL 018-881-3660

秋田地方气象台

TEL 018-864-3955

東北農政局秋田県拠点 統計チーム

TEL 018-895-7301

秋田県農林水産部水田総合利用課 (農産・複合推進班)

TEL 018-860-1786

園芸振興課 (調整・普及班)

TEL 018-860-1801

【次回の発行日は6月29日(金)の予定です】